

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3142041号
(U3142041)

(45) 発行日 平成20年6月5日(2008.6.5)

(24) 登録日 平成20年5月14日(2008.5.14)

(51) Int.Cl. F 1
A 6 1 C 15/04 (2006.01) A 6 1 C 15/04 5 0 1
A 4 6 B 3/18 (2006.01) A 4 6 B 3/18

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1770 (U2008-1770)
 (22) 出願日 平成20年2月27日(2008.2.27)

(73) 実用新案権者 390007331
 株式会社まるき
 大阪府河内長野市小山田町59-2
 (72) 考案者 森岡 慎次
 大阪府河内長野市小山田町59-2 株式
 会社まるき内
 (72) 考案者 小浦 吉史
 大阪府河内長野市小山田町59-2 株式
 会社まるき内
 (72) 考案者 浅野 万希
 大阪府河内長野市小山田町59-2 株式
 会社まるき内
 (72) 考案者 工藤 健太郎
 大阪府河内長野市小山田町59-2 株式
 会社まるき内

最終頁に続く

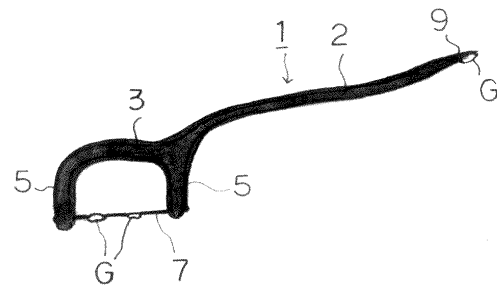
(54) 【考案の名称】 歯間ブラシ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 糸等よりなる細線に付いた歯間ゴミが見えやすく、ゴミの除去効果の確認が容易に行える歯間ブラシを提供する。

【解決手段】 把持部2と歯間ゴミGを除去する細線7が設けられている機能部3とからなり、細線7が黒色であることを特徴とする歯間ブラシ。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

把持部と歯間ゴミを除去する細線が設けられている機能部とからなり、前記細線が黒色であることを特徴とする歯間ブラシ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この考案は、歯間ブラシの改良に関する。

【背景技術】

【0002】

最近においては、糸等の細線により歯間ゴミを除去する歯間ブラシが広く使用されている。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

この種従来品は細線として白糸を用いているので、使用した際白糸に付着した歯間ゴミが見えにくく、ゴミの除去効果の確認が行いにくいという問題点があった。

【0004】

この考案では、糸等の細線に付く歯間ゴミが見えやすく、ゴミの除去効果の確認が容易に行える歯間ブラシを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

この考案では、把持部と歯間ゴミを除去する細線が設けられている機能部とからなり、前記細線が黒色であることを特徴とする歯間ブラシを提供する。

【0006】

この考案の構成の歯間ブラシは、使用に際し黒色である細線に歯間ゴミが付着した際、歯間ゴミは白色に近く黒色である細線とその明度の差が大きいので見えやすい。

【0007】

細線の材質等は適宜であってよいが、使用時に唾液に触れた際に黒色の脱色がなく、また、葉や歯茎を傷めない糸状の柔らかいものが好ましく、例えば、黒色のポリスチレン繊維の撚糸等が好適に用いられる。また、歯間ブラシは尖った形状のようじ端部を一体に備えるものとされることで歯間ゴミの除去機能が高められ、その際にはそのようじ端部も黒色とされることでゴミの除去効果が確認できるものとなる。

【考案の効果】

【0008】

この考案によれば、細線に付く歯間ゴミが見えやすく、ゴミの除去効果の確認が容易に行える歯間ブラシが得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

図1はこの考案の歯間ブラシの外観斜視図である。

【0010】

歯間ブラシ1は把持部2と機能部3とからなり、機能部3の一对のフレーム5、5間に歯間ゴミGを除去する細線としての糸7が架け渡されて設けられている。把持部2と機能部3の糸7を除く部分は黒色のプラスチックにより連続一体形成されている。把持部2の先端は尖って形成されることでようじ端部9とされている。

【0011】

上記糸7は黒色のポリスチレン繊維が撚られて構成された黒色系よりなる。糸7は把持部2と機能部3の糸7を除く部分とが一体に成形される際に、インサートされることで装着されている。

【0012】

10

20

30

40

50

上記歯間ブラシ 1 は、糸 7 及びようじ端部 9 により歯間のゴミの除去が行える。図 2 は糸 7 及びようじ端部 9 に歯間ゴミ G が付着した状態を示し、糸 7 及びようじ端部 9 はともに黒色であり、歯間ゴミ G は白色に近くそれらと明度の差が大きいので非常に見えやすく、これによりその除去効果が容易に確認できる。

【 0 0 1 3 】

糸 7 は黒色のポリスチレン繊維の撚糸よりなり黒色が染色により付されたものでないので、使用に際して唾液に触れても脱色の恐れがなく、衛生上の問題もない。また、糸 7 はプラスチック製でありながら単一線構造でなくて柔らかいので、使用時に歯や歯茎を傷めることがない。

【 図面の簡単な説明 】

10

【 0 0 1 4 】

【 図 1 】 この考案の歯間ブラシの実施形態の外観斜視図

【 図 2 】 この考案の歯間ブラシの実施形態の使用説明のための外観斜視図

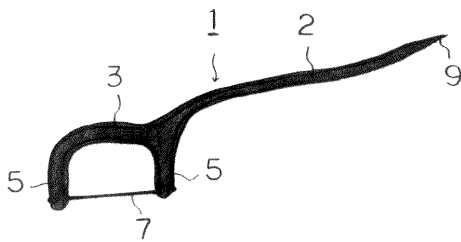
【 符号の説明 】

【 0 0 1 5 】

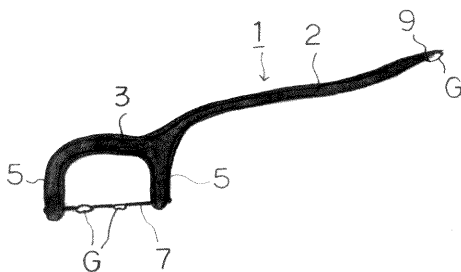
- 1 歯間ブラシ
- 2 把持部
- 3 機能部
- 7 糸（細線）
- G 歯間ゴミ

20

【 図 1 】



【 図 2 】



フロントページの続き

- (72)考案者 三輪 祐子
大阪府河内長野市小山田町5-9-2 株式会社まるき内
- (72)考案者 山下 真理子
大阪府河内長野市小山田町5-9-2 株式会社まるき内